



第 1314 回例会報告

平成25年4月25日(木) 晴

【4月は識字率向上月間】

会長挨拶

会長 蒲地整志

逆必ずしも真ならず

1+1は2ですが、2は1+1だけではありません。
理屈っぽくなりますが、「人間は動物である」は正しいが、「動物は人間である」は間違っています。

ところが、世に中ではこの「逆必ずしも真ならず」が「逆も真である」と言うように使われているケースが多くあります。

例えば「犯罪は良くない事だ」に対して「良くない事は犯罪だ」みたいな論評がマスコミ等に出ている人達の口からよく聞かれます。

「良くない事は犯罪だ」と声高にテレビ等で言われると、見ている人はその気になってしまいます。

ちょっと偏った人生観の押しつけの様になってしまいます。

私がいつも言うように「真実とは？」と言う問いかけを自分自身にする事で、この様な事は防げると思っています。

ちょっと例えが悪かったかも知れませんが、四つのテストの「真実かどうか？」の重要性を改めて認識する次第です。

◇幹事報告◇

【理事会報告】

- 例会予定が次のように承認されました。
5月2日 休会
9日 1315 スポーツ例会 クラブ奉仕
16日 1316 会員卓話 クラブ奉仕
23日 1317 林教諭卓話 新世代奉仕
26日 1318 環境の日 和田峠清掃(日曜日) 社会奉仕
30日 休会(5月26日と振替)
6月6日 1319 早朝例会 平福寺 クラブ奉仕
- お花見例会の決算報告がなされ承認されました
- 「ブナの森の鹿除けネット装備」を地区資金補助にエントリーし「セブの子供に音楽を」は、グローバル資金へのエントリーとなりました
- 未来の夢計画(地区資金補助)への報告書を提出しました。
- 米山留学生の交流クラブに登録しました。
- 国際大会信任状を宮坂宥洪ガバナーエレクト

■出席報告

会員数	35名
出席対象	33名
出席者数	27名
出席率	81.8%
前回修正	81.8%

■ニコニコBOX

24名	24,000円
累計	1,036,000円
目標額	130万円
達成率	79.7%

■今週のことば

長女が今度の日曜日に結婚いたします。次女は3年前でした。親として一安心。
萩田 均
今週末、娘がお嫁に行きます。
うれしいような、悲しいような……。

吉澤邦雄

■次回のプログラム

5月16日
会員卓話
クラブ奉仕委員会



を代理人として提出しました

- 7) 「緑の遺産」に植樹用の木をもらえるようにエンターしました
- 8) 過日アンケート調査をしました職業分類の変更について下記のように決定しました

会員名	職業分類	企業名	職業分類分類変更申請
小林 聖仁	真言宗	平福寺	仏教真言宗
高林 一紀	建築資材販売	高林ペニー株	建設機械用品販売
御子柴文夫	非鉄金属铸件	湖北工業株	機械部分品製造
溝口 幸二	歯科医	溝口歯科診療所	シニア(歯科医)
吉澤 邦雄	運動指導	株スワスイミングセンター	スポーツクラブ
渡邊 芳紀	プラスチック加工製造	株ヤマト	精密工業

【報告事項】

- 1) ロータリーレート5月は98円です
- 2) 震災義捐金の館症状が届きました

【受領文書】

- 1) 大津、岡谷、諏訪 RC のウィークリー。
- 2) 大津ロータリー年次報告書

第 1314 回例会

セブ支援の今後・グループディスカッション 国際奉仕委員会

今後の国際奉仕活動を皆さんに考えていただきました。各グループで話し合われたことの集約を試みました。

*セブ島支援は今や、諏訪湖ロータリークラブの看板事業と自他ともに認知されている。しかし私たちがやるべき奉仕活動は、社会奉仕委員会で扱う“諏訪湖浄化と里山整備”さらに“新世代活動”等々もあり、その活動がいささか弱体化(不活発)しているように思う。バランスの良い活動が大事だと思う。

*セブ島支援はクラブの一部の人の事業ではなく全会員が関わる事業でありたい。セブ島に行つての活動だけがこの事業の活動ではなく、鍵盤ハーモニカの収集、整備、日本における中学生の国際理解・交流のお手伝い等々様々な役割があるので、分担して参加していくことが大事です。活動資金や、訪問時のカンパ等、会員には認知された事業である。但し、ロータリークラブの活動は、会員それぞれの自由な善意・奉仕遺志によって成り立っているから、強制されるものではない。無理やりのおしつけはクラブそのものを解体させてしまう。

*セブ島支援については、古着の収集・配布、食糧・薬品支援、クリーン・ウォーター・プロジェクト

等の人道的支援から、教育(音楽)支援へと質的な上昇・ステップアップしてきている。それは評価できることだが、いつまで、どこまでやるのか、一定の終点を考えるべきだ。

*25周年の検討を踏まえ中期計画で行われてきたセブ島支援に一応の決着をつけて、ミンダナオ子供図書館支援については、取り組むか否かも含め検討すべきである。無論、ロータリアンの個人的支援はできるだけしていけばよいし、調査を続け、下準備をしていくことも必要である。

*どんな事業をするにしても諏訪湖クラブの能力(資金力・運動力)を超える活動はできない。身の丈を考えながら取り組むことが必要である。

*日本国内では2年前の東日本大震災の被災者支援という課題もある。そちらも忘れてはならない。ロータリーの奉仕の原則に沿った支援計画を考える必要がある。

友人に例会での話をしたところ以下のご意見を頂きました。(長崎)

RCの例会での論議、正当を得ていますね。この世界:人間社会は矛盾に満ちている。特に発展途上国と称される国家・社会・地域にあつては<人が固有の権利として保有すべきその尊厳性・人としての生存価値・存在意味さえもが為政者や財閥・宗教家等の恣意的感情や利潤追求の為にいとも簡単に唾棄されている>。この矛盾に満ち溢れた現実の中、一地方ロータリアンのみでの出来る事は微々たるもの。

優先度や会員の意思を大切に取捨選択しなければ、アップアップ。会員減少や組織溶解さえ起こしかねん。中小の企業主、それ程豊かでもないわけだしね。考えてみれば三十数名のクラブ員の、年間二十万そこそこの会費の中、セブ島支援だけでもなかなか大変。クラブ員の中には<サロン会員>も有るだろうし、また途上国政府や国民の自浄向上力に価値を置く考え方も成立する訳だしね。

“諏訪湖浄化と里山整備”、“新世代活動”“日本における中学生の国際理解・交流”“東日本大震災の被災者支援”等々、これだけ考えただけでもオーバーワーク気味に感じられる位に大変。そして“ミンダナオ子供図書館”。

意見中の<身の丈にあった活動を>というスタンス絶対に必要だね。ロータリー組織って、嫌なら止められる関係にある組織だもの。でも何処を何時どのように誰が整理し活動や重点の再編成をするか・・・課題は大きいように思うな。

